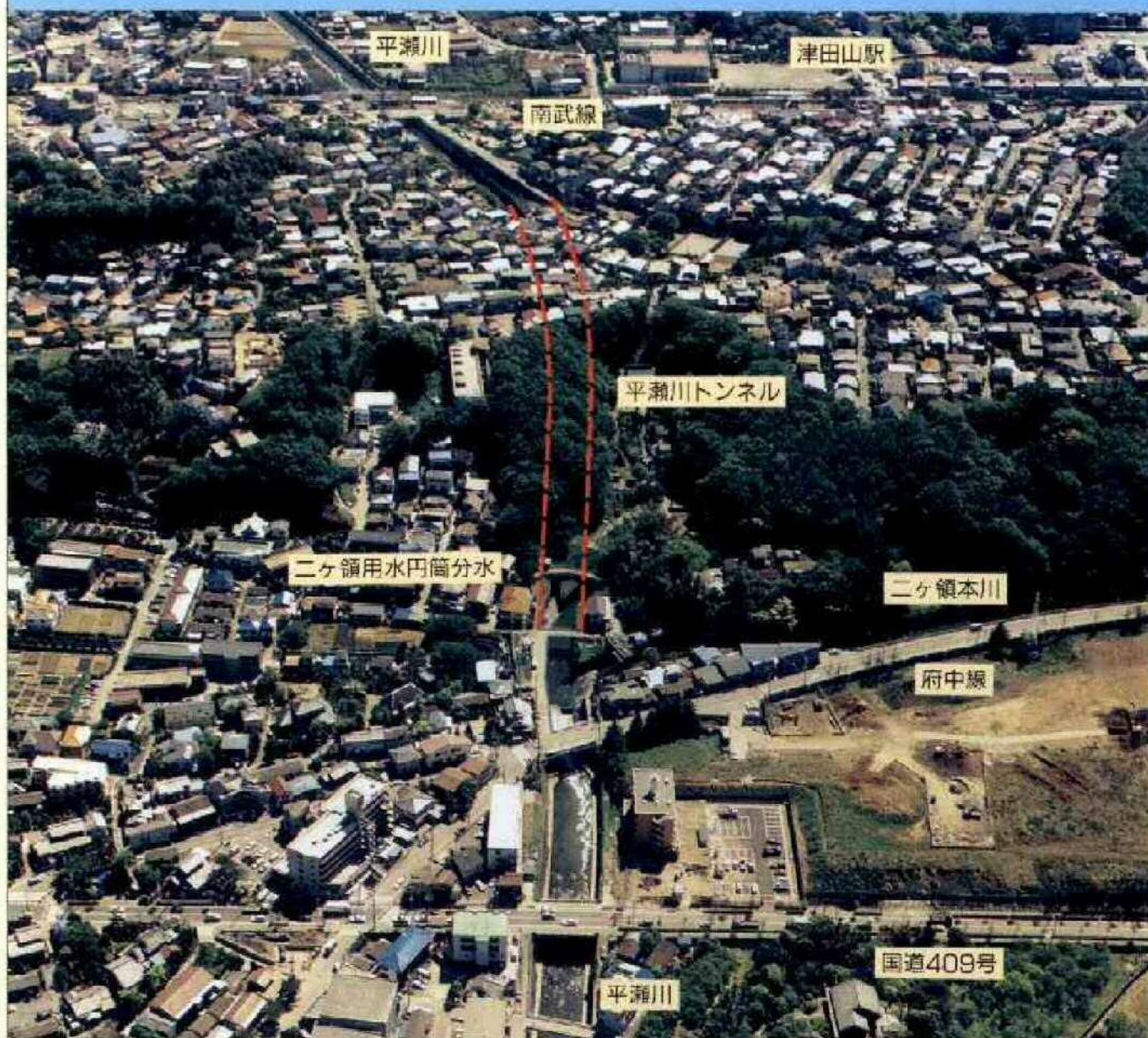


一級河川

平瀬川

～トンネル改修計画～



川崎市

平瀬川トンネル

「平瀬川トンネル」は、川崎市の中央部を流れている平瀬川の下流部に位置し、現在2本のトンネルが抜けています。このうち1本は、戦前の昭和15年から20年にかけて、毎秒30mの流下能力を持つ県営多摩川右岸農業用水利改良事業の一環として多摩川へ全量カットするトンネルとして築造されました。その後昭和30年代から始まった急激な都市化の進展とともに、不浸透



平瀬川トンネル下流部(高津区久地)

域が増大し、従来から有していた保水、遊水機能が低下した結果、既存トンネルの能力以上の雨水の流出が起こるようになり、トンネル上流部では毎年のように氾濫が繰り返され、その被害は甚大なものでした。そこで、毎秒60mの流下能力を持つ2本目のトンネルが昭和42年から45年にかけて、築造され現在に至っています。

平瀬川の整備計画



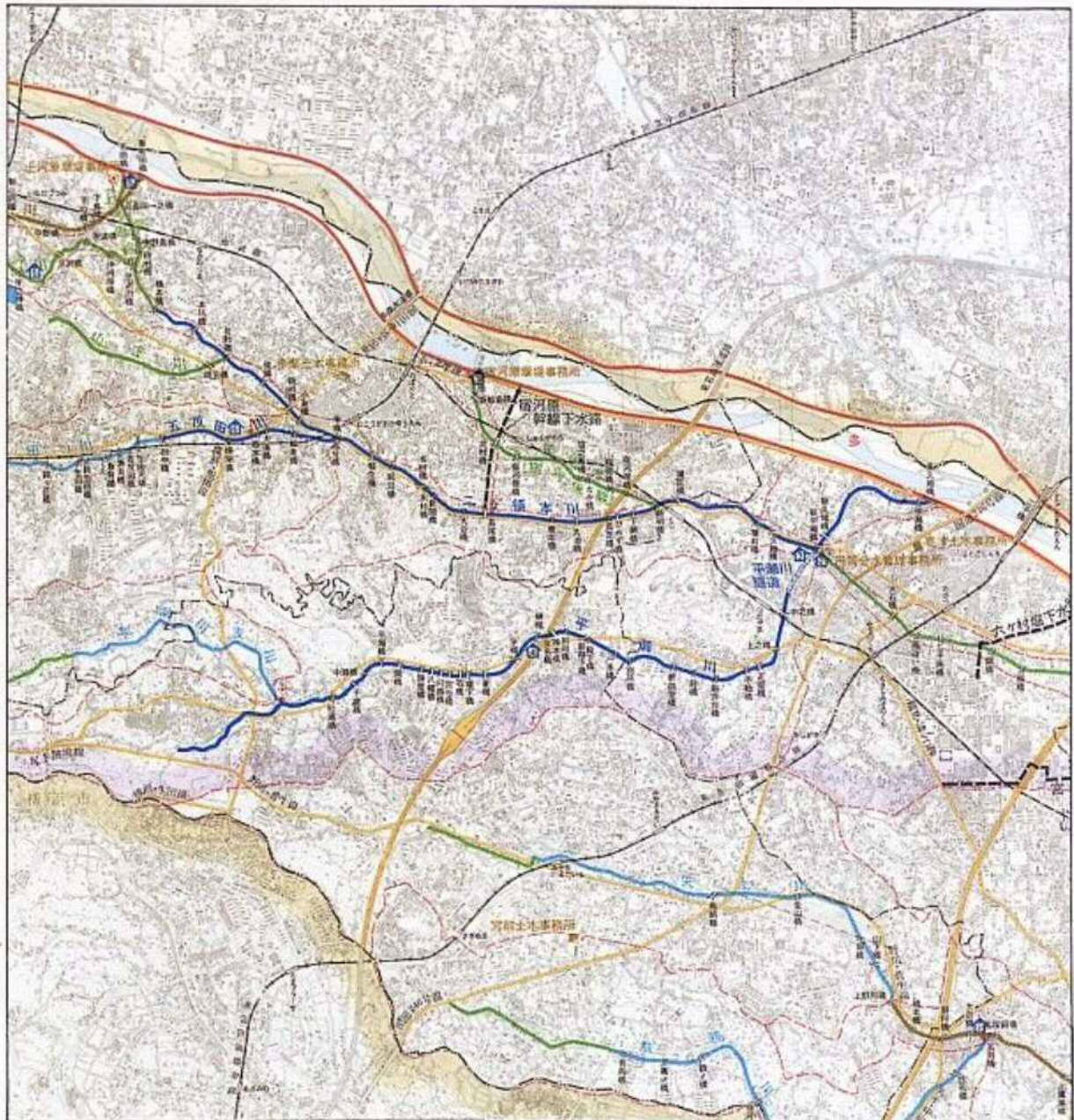
平瀬川親水護岸(宮前区平4丁目)

現況のトンネルが築造されてから約25年が経過しようとしている今日、平瀬川流域は宅地開発等の都市化がさらに進み、降雨時の流出量が増大してきたため、計画的な整備が必要になってきました。このような状況の中、昭和56年10月に平瀬川水系全体計画を策定し、平瀬川の整備を今後どのように行っていくか、その方向付けがなされました。これを受け現在、時間雨量50mm、

確率として3年に1度降るとされている雨に対して氾濫しないよう整備が進められており、将来的には時間雨量90mm、確率として30年に1度の降雨に対する整備が計画されています。

平瀬川について

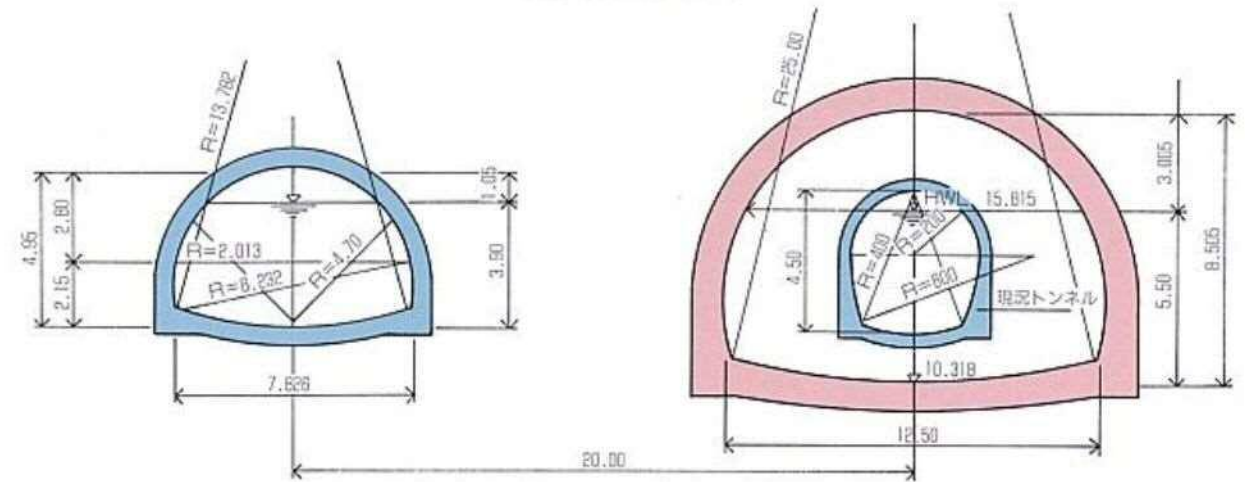
平瀬川は川崎市西部台地に源を発し、北東に向かって台地の浸蝕谷を流下し、多摩川の氾濫により形成された平地を経て左支川二ヶ領本川と合流し、久地地先の多摩川右岸の霞堤開口部で多摩川に合流している流域面積27.05km²、流路延長7.56kmの一級河川です。流域は、東西方向に長い長方形の形状を示しており、その地形は丘陵、台地、平地よりなっています。上流部は洪積層台地で、平瀬川はこの台地を浸蝕して流下し、三浦層群に属する地層も一部露出しており、下流部は多摩川により形成された沖積地帯で、平瀬川全流域は市街化が進行して、その大部分が住宅地、工業団地として開発されています。河床勾配は、上流部1/150、中流部1/300～1/400と急勾配をなし、下流部の多摩川氾濫原では1/700となっています。



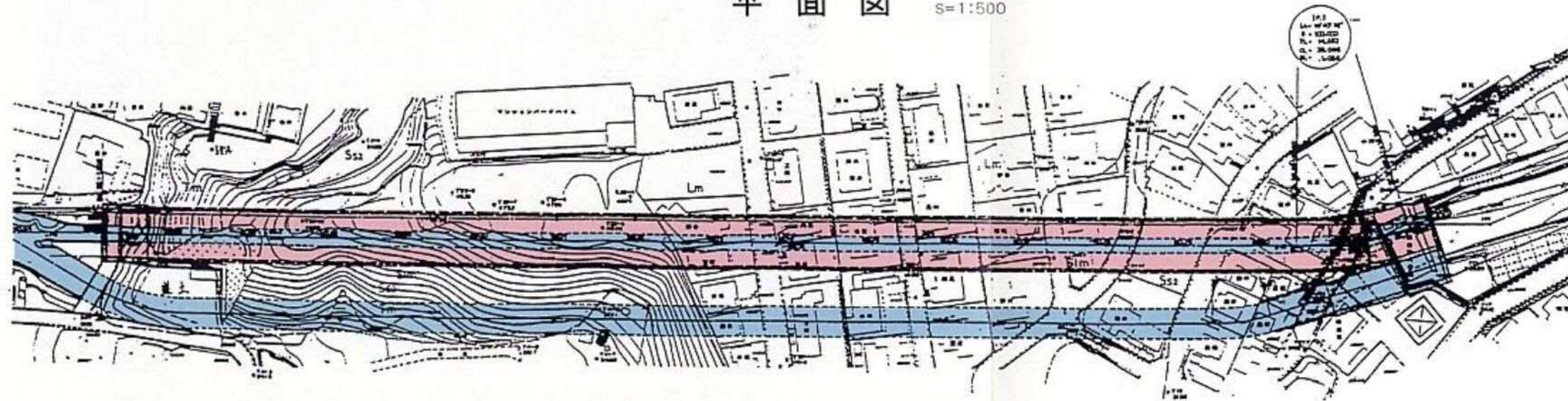
トンネルの整備計画

現在、平瀬川整備計画は時間雨量50mm降雨時130m³対応として改修が進められており、将来的には、時間雨量90mm降雨時230m³対応として計画されています。しかしながら、平瀬川の下流部に位置する平瀬川トンネルは、現況で降雨時110m³の流下能力しかなく、現在、上流部で進めている改修計画が完成すると、平瀬川トンネルがネックとなり、大雨による氾濫の危険性が増大するため、早急な改善が望まれています。このため、大小2つのトンネルの内、築造後約半世紀を経過して老朽化が著しい小トンネルの方を改修し、再改修の困難性から、将来計画に合せた時間雨量90mm降雨時230m³対応規模で改修する計画を立案しました。

標準断面図



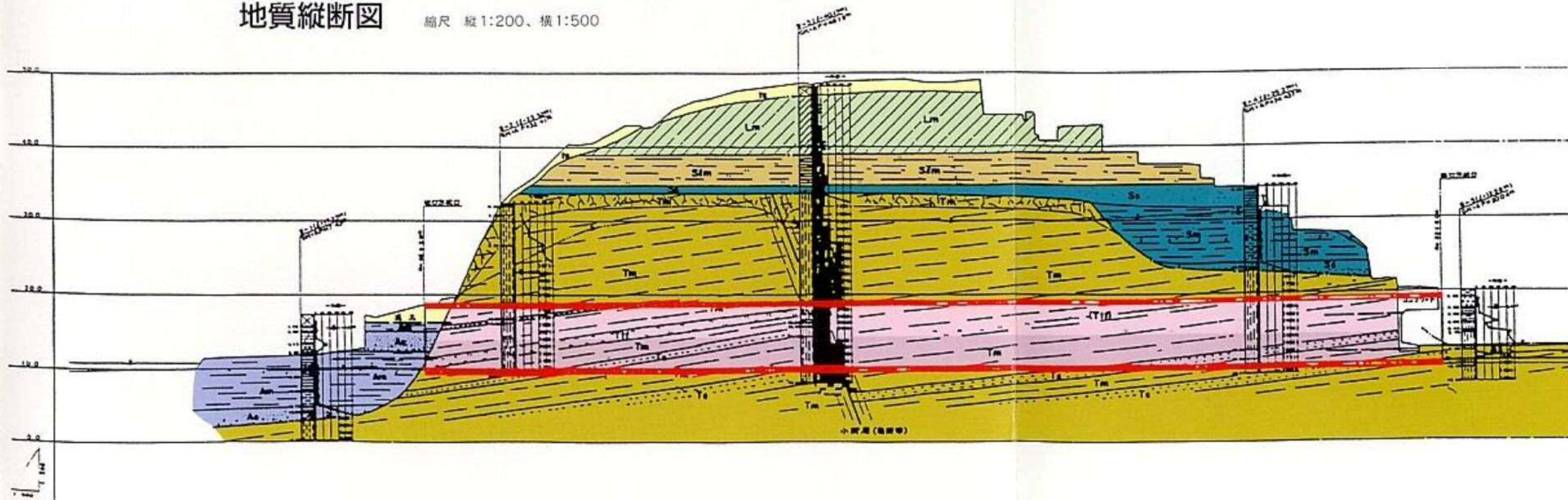
平面図 S=1:500



新トンネルの概要

トンネル断面形	偏平馬蹄形
縦断勾配	1/600
延長	343.6m
幅員	12.6m
高さ	8.505m
土被り	0~24.644m
設計流速	3.58m/s
内空面積	86.7m ²
設計水深	5.50m

地質縦断図 縮尺 縦1:200、横1:500



凡例

沖積層	表土	ts	
	河床堆積物	Ap	腐植土
		Ac	粘性土
洪積世	As	砂質土	
	新期ロウム	Lm	
	下末古ロウム	Slm	
	下末古層	Sm	粘性土
		Ss	砂質土
高津II層	Tm	シルト	
	Ts	砂(岩)	

洪水から市民をまもる



台風17号(昭和51年9月)高津区下作延

安全な街づくりのために

平瀬川トンネルについてのお問い合わせは下記まで

川崎市建設緑政局 道路河川整備部 河川課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL 044-200-2905